

柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会
《瑞穂中学校区》

日時：令和6（2024）年4月2日（火）午後6時30分～8時

会場：西中通コミュニティーセンター

司会：皆さん、こんばんは。本日はお忙しい中多くの方からご参加いただきまして誠にありがとうございます。ただいまから柏崎刈羽原子力発電所を再稼働に関する懇談会を始めさせていただきますと思います。本日の進行を務めさせていただきます防災・原子力課長の吉原と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の懇談会の終了時間は午後8時を予定しております。会の円滑な進行にご協力くださいますようよろしくお願いいたします。会に先立ちまして皆様にお知らせとお願ひがございます。会の途中、スタッフが写真撮影と録音をさせていただきます。写真は広報かしわざきや市ホームページに掲載するためでございます。録音は議事録を作成するために使用させていただきます。この点どうぞご理解いただければというふうに思います。また、報道機関による写真撮影等がございますので併せてご理解願ひます。それでは初めに市長の櫻井雅浩よりご挨拶申し上げます。

市長：皆さん、こんばんは。本日は瑞穂中学校区の地域懇談会・原子力発電所の再稼働を巡る地域懇談会に皆様、ご参集賜りましてありがとうございます。通常、地域懇談会というのは、様々な皆様からのご要望を含めて、毎年7月頃、7月前後に行っておるわけですが、今年も通常的地域懇談会は行いますけれども、今回は原子力発電所の再稼働を巡るということでターゲットを一つに絞って皆様と意見交換をさせていただけたらと思い、今回、急遽でありましたけれども企画をさせていただいたところでございます。

今日はまず時間配分でございますけれども、私の方から原子力発電所に対する考え方、また再稼働に対する考え方、また再生可能エネルギーの柏崎市の取り組みなども含めて、概ね30分ほどお話をさせていただき、後段の、後半の3分の2、つまり1時間ほど皆様から、ご質問をいただいたり、ご意見を承ったりという時間にさせていただきますと思っておりますのでお願ひをいたします。

今日、実はこの西中通で7ヶ所目でございます。ご承知のように、柏崎市には中学校区が11ございます。11の中学校区、最初は原子力発電所の地元の松波コミセンで松波町、荒浜、大湊、宮川、椎谷といった、まさにお膝元の地域の方々を中心に初日を始めさせていただき、今日が7日目、7中学校区目という形になります。

まず、最初は、私の方で立ってお話をさせていただき、後ほどプロジェクターなども使いながらパワーポイントなども使いながら、そのときは座ってお話をさせていただきます。

皆さんのお手元に2枚のプリントが配布されているかと思ひます。○・×・△と書いてあるプリント、もう一つは、ニュースリリース報道発表2022年8月24日水曜と書かれたGX実行会議のコメントのプリント2枚でございます。

まずは、○・×・△の方をご覧ください。私の、原子力発電、再生可能エネルギーに対する考え方、別紙と、別紙はこれからご説明しますが、簡単に申し上げるならば、原発は私の考え方としては、現時点では、必要であると、再稼働は意義があるということです。柏崎にとっても日本にとっても、そしてまた世界にとっても意義があるというのが私の考え方であります。

しかし、未来永劫、原子力発電所に頼るのではなく、徐々に確実に減らしながら集中リスク、7つあるわけですが、減らしながら、再生可能エネルギーを含めた環境エネルギー産業を構築していきたい。

具体的には、CN 電力と書いてあります、CN というのはカーボンニュートラルの意味でございしますが、つまり発電をするときに CO2 を出さない、カーボンを出さないという意味での原子力発電所、そして再生可能エネルギー、風力、太陽光などこういった CN 電力の柏崎は拠点になるべきであろうと、拠点にしたいというのが、概ねの大きな考え方でございます。

皆さんご承知のように、お前になんか票なんか入れてないという人も、今日はたくさんいらっしやるかもしれませんが、私は市長職を拝命し、今年で8年目になります。任期もあと半年ほど残しているという形になります。私自身は、ご承知のように4回市長選挙に立候補をしているところでございます。2回は落選。その後、福島が事故が起こり、2011年3月11日に東日本大震災が起こり、翌日3月12日に、福島の原子力発電所事故が起こり、その20日後、3月31日に、私は自らの政治団体を解散し、政治から身を引くと、いうふうに皆様にお知らせをしたところでございます。

このことは、文書をもって、それぞれ新聞の折り込みチラシに入れ、念には念を入れたいとおかしいですけども、もう1回出馬してくれという人もいらっしやるものですから、いや、出ませんと、福島が事故を経験して私は政治から離れます、ということを書き添えて、それを皆さんの折り込みチラシに入れさせていただいたところでございました。

ところが8年前に、固有名詞は申し上げませんが、8年前、具体的に申し上げますと、9年前に夏、選挙の前の夏、原子力発電所を反対する立場のリーダーでいらっしやる議員さんから、櫻井も一度出ろというお声をいただきました。なぜ反対派のリーダーでいらっしやる議員さんから私にも一度出ろというお声がかかったのかといいますと、私は、残念ながら事故を起こした原子力発電所ではあるけれども、もう一度、やはり再稼働せざるを得ないけれども、日本はこの福島事故を経て、徐々に確実に減らしていきながら、再生可能エネルギーにシフトしていくべきじゃないかというその部分に原発反対派の議員の方が、それでいいから、出ろというお声をいただきました。

もう一方、原子力発電所を推進してきたリーダーの議員さんからお声がけをいただき、その議員さんは前からずっともう一度というふうなお話だったわけですがけれども、けれどもその議員さんに私申し上げました、議員さん、私は再稼働には意義があるし、求めるところであるけれども、徐々に確実に原発は減らすと言ってるんですよ。それで良い、とおっしゃるのでしょうか、というふうに、いわゆる推進派の議員さんにも申し上げました。その議員さんもそれでいいと。ということで、8月の31日、今でも覚えてますけども、反対派のリーダーである議員さんと推進派のリーダーであった議員さんと私の3人で一堂に会して、これでいいですねということで、立候補をさせていただいたところでございました。

その後、残念ながら私を誘った原発反対派のリーダーの議員さんは、明確な原発反対、絶対反対という立候補者が出られたので、櫻井、悪いけど俺はそっちに行くわということであったわけでございます。そして4年前、2回目の私の市長選挙を当選させていただいたときですけども、これも皆さんご承知の通り、対抗された立候補者は、原発は反対、再稼働ももちろん反対、すぐに廃炉ということを主張される立候補者が出られ、私は再稼働には意義がある、徐々に確実にということを先ほど申し上げたことを申し上げて。ただ、あのときは、もう遠い昔のように思われますけども、コロナの真っ只中でございました。コロナ対応のこともあり、また少子化のこともあり、学校の統合のこともあり、そして高齢者が多くなったこともあっていろいろな事柄があった中で、公約を掲げ、当選をさせていただいたところでございます。

通常であったならば、4年前の選挙の後に、東京電力のこの原子力発電所7号機、6号機は、国のゴーサインが出ていたわけですので、私も公約として意義があるというふうに申し上げて当選をさせていただいたわけですので、通常であるならば、再稼働に進んでいたはずであ

ります。しかし、私の当選直後、1ヶ月ほどして、東電のIDカードの不正事案が出てきたり、年が変わって1月に核物質防護の問題が出てきたりしながら、残念ながら、今に至るまで再稼働がされていないという状況になっております。

そして、昨年12月27日に原子力規制庁、規制委員会の、いわゆる東京電力に対する追加検査がようやく終わり、国のゴーサインが出たというのが、ここまでであります。法律的には、もう東京電力は原子力発電所を動かすことに問題はありません。法律違反ではありません。国がOKを出していますので、地元合意だとか、地元了解というのは基本的には必要ないです、法律の中では。しかし柏崎刈羽原子力発電所を含めて、日本における原子力発電所は常に地元了解というものが重要だというふうにされていますけども、法律には規定されていません。法治国家でありながら、極めて日本らしいといえば日本らしいところでございます。ではなぜ私がこの再稼働に意義があるということを考えているのかということをお話させていただきます。座らせていただきます。

まず、○・×・△の方をベースに、事実関係でございます。

福島事故における補償、廃炉復興に関する経費が23兆4000億円かかると言われております。そして先ほど冒頭申し上げましたように、事故の後すぐに私が申し上げたのは、残念ながら、事故を起こした原子力発電所だけでも、東京電力だけでも、もう一度、東京電力が原子力発電所を再稼働することを認めざるを得ないと申し上げたのは、この福島事故における補償、廃炉、復興に関する費用が23兆4000億かかり、この前までは21兆9000億だったわけですけども、そのうちの17兆円オーバーが、東京電力が負担する金額でございます。そして東京電力は今既に株式の過半以上を国、原賠機構が持っておりますので、実際的には国営会社みたいなものであります。が、東電がこの福島の廃炉や補償などを含めた17兆円オーバーのお金を稼ぎ出すためには、真に皮肉な話ですけども、原子力発電所を動かして、1基当たり1年間、約1100億円が上がると言われております。それを稼ぎ出さないと福島の復興、補償等が賄えない、17兆円オーバーの部分が賄えない。ただでさえ、今、国民負担が、残りは国民負担、皆さんも含めて、もちろん私も含めて、なっているわけですけども、まず本当に皮肉な話でありますけれども、再稼働に意義があると考えているところでございます。

さて、次に進む前に、もう一つのプリント、2022年8月24日のプリントをご覧ください。これは、同日に国、政府が出したGX、グリーントランスフォーメーション実行会議に出された方向性に対する私のコメントです。

GXはなんだということでございますけれども、わかりやすく申し上げるならば、グリーン、環境に配慮した電力の作り方、環境に配慮したエネルギー政策、産業政策を国としてまとめたものでございます。

それに対して私は、柏崎市長としてコメントをしたものが以下の通りであります。この部分が全てでございますので、少し早口になりますが、全部読み上げさせていただきます。

- ① 再稼働の方針に、改めて柏崎刈羽7、6号機の名前が含まれるとするならば必然。
- ② 国の方向性、「安全性の確保を大前提とした上での原子力の最大限活用」が示された以上、新潟県におかれましては、「3つの検証」について、行政手続法の観点からも、明確な結論を早期に出し、原発、再稼働問題の議論を始めて頂きたい。
- ③ 稼働標準期間を40年から60年に延長する方向性、検討も、日本のエネルギーセキュリティ、また、気候変動、地球温暖化を防ぐという原発の環境性能を考えても、海外の事例を勘案しても妥当
- ④ 原子力規制委員会による安全審査などに長期間を有している現状を鑑みると、40年の期間から、審査期間、柏崎刈羽のように中越沖地震などで止めざるを得なかった期間、つまり原子炉稼働により放射化されなかった期間を減ずるのが合理的ではないかと思うが、この点にもしっかりとした基準が求められる。

⑤ 私自身は 1~7 号機全ての再稼働は経済的にも、安全面からも合理的ではないと考える立場なので、従来申し上げているように東京電力には 1 号機~5 号機の廃炉計画を出してもらいたいという考えに変化はない。もちろん、5 つ全てを廃炉してもらいたいということではない。

⑥ アメリカ合衆国においても、1 立地点で 3、4 の原子炉を有しているのが最高であり、福島事故を経験し、かつアメリカ、ヨーロッパ、中国などと比べても大規模地震が起きる確率がけた違いに大きい日本においてはエネルギーセキュリティ、環境性能を考えてもなお、原発は制約的であるべき、というのが私の考えである。

⑦ リプレイス、新增設の議論が出てくることは、ウクライナ情勢、エネルギー価格の高騰、経済、国民生活への影響を考えると、一般論として考えれば、これも自然な流れであると考える。

⑧ 柏崎刈羽原子力発電所の 1 立地点、柏崎市の市長として、この 53 年間原発賛成、反対と議論し続けてきた歴史に鑑みると、今、この時点でリプレイスだとか新增設などということは言える段階ではないと考える。

例えば、50 年間言われ続けてきた「トイレ無きマンション論争」核燃料サイクルに明確な方向性、光が見えない。六ヶ所村の使用済み核燃料再処理施設は 26 回目の竣工延期である。日本が未だ先進国だとするならばあり得ない事態である。むつ市、青森県の苦悩を見る時、原発立地点として、さあ、原発、どんどん行こう、等とは到底言えない。

柏崎刈羽の使用済み燃料プールは全体で約 81%が埋まっている。再稼働を目指している 7 号機のもは約 97%、6 号機のもは約 92%埋まっている。

⑨ バックエンド問題も、敢えて言うが、寿都町、神恵内村の「男気」に頼るようでは国のエネルギー政策とは言えない。

⑩ 本当に腰の据えた国民的議論を、早期に、そしてしっかりとしていただきたい。国の存亡をも占うエネルギー政策を「これを機会に」「やっつけ仕事」ではいけない。

納得がいく議論がなされ、結果が出されたとするならば、国がこれまで以上に、原発の科学的、合理的安全の確保を行い、住民が安心、かつ豊かな生活を享受できるような施策展開、原発の集中リスクの軽減、洋上風力発電の海底直流送電など再生可能エネルギー供給計画への柏崎市の参画等を担保していただけるならば、柏崎市はこれまで以上に国のGX、エネルギー政策の一端を担う覚悟はある。

これは昨年、一昨年、2022 年の 8 月 24 日に出した文章であり、今も柏崎市のホームページにはこれアップされていて、どなたもご覧いただくことができます。

ちなみにこの文章の内容を、特に⑤番、⑥番の原発の再稼働に対する内容は、先月、3 月の下旬に、経済産業大臣、斉藤経済産業大臣から原子力発電所のことについてお電話をいただいたときに、斎藤大臣にもこの文章をご覧いただき、そしてこの特に 5 番、6 番に関しては私の考え方として、大臣にもお伝えしたところでございます。

○・×・△のプリントに戻ってください。とはいえ、なんで原発が、さっきの福島のこと以外に必要なんだということに関しましては、○・×・△の裏面をご覧ください。

円グラフが書いてあり、そして、下に帯グラフが書いてあります。円グラフは日本の電源構成です。つまり、石炭火力によって電気を作っている割合が 27.8%、LNG・液化天然ガスが 29.9%、石油 3%、その他火力 11%、全部足し算をしますとおおむね 70%です。つまり、日本は、今現在、この電気も含めて、東北電力さんを含めて、日本は約 7 割が火力発電で CO2 をどんどんどんどん出しながら、電気を作っているということでございます。

そして、下の帯グラフを見てください。中国、アメリカ、インド、ロシア、日本と続きます。帯グラフを見ても先ほど申し上げた、横になっただけですけども、若干数字が違うのは年度の 2021 とか 22 とか 23 の違いですけども、日本はおおむね 70%が火力発電です。

残念ながら中国が石炭によって 63.3、石油 0.1、天然ガス 3.1 ですので、中国よりも日本の

方が火力発電の割合が多いということです。電気を作るのに、中国よりも日本の方が割合として、どんどんどんどん火力発電でCO2を出しながら、電気を作っているというのが実態です。アメリカよりもロシアよりも多い。インドだけが日本よりも火力発電の割合が多いわけですが。

ご承知のようにCO2は地球温暖化の原因です。今年の夏、柏崎も38度でした。雨がほとんど降りませんでした。お米も大変な状況でした。こんなことが続いています。一昨年、ドカ雪でした。その後は降りませんでした。去年、今年もです。12月にちょっと降って、あとほとんど降らなかった。このような異常気象が毎年のように続いています。線状降水帯といった言葉は、昔はありませんでした。

私、来月で62になりますけども、子供の頃、夏は30度がせいぜいでした。38度の夏などというのはありませんでした。これが今、地球温暖化が私達の目の前にある、実際に体験するというところの原因にもなっている、このCO2による、排出による発電であります。日本の実態であります。そして世界の实態であります。

次いでその下の日本地図を見てください。これは電気料金の問題です。日本地図、東北電力、今私達は東北電力です。ある原発は東京電力ですけども、残念ながら東京で使う電気、後でもお話しますが、今東北電力から電気を受けています。

東北電力は原子力発電所動いていません。原発が動いている関西電力5236円、東北電力7833円、去年の6月のデータですけども、圧倒的に関電が安い、関西電力は安い、東北電力高い。関電は、福井の原子力発電所が動いているからです。同じようなことは九州電力にも言えます。原子力発電所が動いて、電気料金は安くなっています。動いてないところは高いです。右側の囲み記事、これは左側の日本地図の部分は家庭用の電気料金ですが、右側の囲みは産業用の電気です、電気料金です。日本でも製造業中心、柏崎でもリケンさんを中心に製造業、たくさんの電気を使います。電気は、大きなコストです。東北電力65万5170円に対して関電は53万1780円。つまり、産業用電気においてもこれだけ、同じ日本ではありませんけれども、差がついているというのが実態です。実際です。

そういったときに、今ほど申し上げたように、地球温暖化を防ぐ、これ以上、異常気象が続く、地球温暖化を防ぐという観点からも、また、日本はものづくり、製造業で物を作って、そして輸出して稼いできたという産業実態を考えても、私達の生活を考えると、電気料金を抑えなければいけないという観点からも、やはり原子力発電所の再稼働が必要ではないかというのが私の考えでございます。

表をめくってください。とはいえども、福島事故、起こったじゃないか、おっかないじゃないか、能登半島の地震、起こったじゃないか、おっかないじゃないか、逃げられないじゃないか、という方がおられます。

まず、黄色いアンダーラインで、これは事実ですが、福島県民の健康被害で事故による放射線被ばくに直接起因するものはないと思う、思われるものは記録されていない。これは原発推進派の方々が出したデータではなく、原発反対派の方々が出したデータでもなく、国連の科学委員会が定期的に出している報告書でございます。胎内の子供、それから甲状腺がん、白血病等の問題も見られそうにない、予想されないと書かれております。

つまり、福島事故においても、原子力発電所による放射線被ばくによる直接の死はゼロでございます。亡くなった方がたくさん、多いのは避難によって関連死という形で多く数えられているのが実態でございます。

じゃあ、能登半島どうなんだ、おっかねって、逃げらんね、家が潰れたら。確かに、そこに書いてありますように、石川県の耐震化率は46%から64%です。私ここに、石川県の全ての自治体の住宅の耐震化率を調べました。原子力発電所があるのは志賀町です。志賀町の周辺全ての自治体も含めて全部調べました。一番低いところは46と書いてありますけども、正

確に言うとは一番低いところは、耐震化のカウントもされていません。64%がマックスです。それに対して柏崎市は皆さんのご住宅も含めて、今、耐震化率は 89%を超えています。お隣の長岡市は 90%、お隣の上越市は 87%の耐震化率でございます。つまり、石川県と大変失礼な言い方かもしれませんが、事実ですので申し上げます。石川県の住宅の耐震化率よりも新潟県、柏崎市の耐震化率は 30 ポイントも 40 ポイントも上だということでございます。そういった意味で、もちろん潰れる可能性はゼロではないわけですが、少なくとも耐震化率においてこれだけの違いがある。道路も同様でございます。

それから、能登半島に今回地震において、割れ残り断層があってそれが怖いじゃないかというような話がございまして。今、これは西中通の皆さんの地域のハザードマップ、この防災ガイドブックの自然災害編に書いてあるところを出してはいますけれども、ここに松波の海岸に色が塗られています。今回能登半島の地震割れ残りによって、もし地震が起こったならば、新潟県には約 3m の津波が来るというふうに予測されています。

しかし、この、皆さんのところにあるハザードマップのシミュレーションは、新潟県が行ったものですが、能登半島地震の前に行ったものですが、3m 以上、具体的に申し上げますと、この松波の部分の予想水位は、確か 5.3m、5.3m の予想水位を想定している、5.3m です。5.3m の津波が来たときに、ここまでは浸水する、そして松波町のここ、曲がっているところ、この部分は水が来る可能性がある。ここ、平成大橋のここは来ることがある。しかしご覧いただいているように、住宅地には、浸水の可能性は極めて低いと。もちろん何事も 100 とか 0 はないわけですので、ということでございます。

そして、そこに書いておきましたように、皆さんの住んでいらっしゃるところも含めて、柏崎市の住宅があるところで 99%は、この白地でございまして。つまり、津波が来ない、浸水地域ではないところが 99%でございます。残り 1%どころなんでしょうと言われれば、昨日も説明しましたけれども、西部、西の方の一部、海岸線のところなどを含めて 1%あります。

いうことを、具体的に数字の上でやはり、やはり考えていただかなければいけないだろうというふうに思います。耐震化率そして今回の能登半島地震の割れ残り断層による津波を想定しても、津波の心配は柏崎においては 99%浸水、皆さんのところは少なくとも浸水地域が入っていないというところでございます。

残り 3、4 分でお話します。

東北電力、先ほど申し上げたように、私達使っている東北電力です。東北電力はこの 9 月に、東北電力の女川原子力発電所がもう一度動く、再稼働する計画です。既に宮城県の知事、女川の町長、それから石巻の市長の地元了解は終わっています。当然、女川の原子力発電所の電気は女川とか宮城県だけに供給されるものではありません。9 月は柏崎にも来るわけです。よく言われるのは、柏崎刈羽原発が動いたって東京に行く電気で、なんでうちらがそんなリスクを負わなきゃ駄目なんだという話もあります。一面正しいわけですが、同じような構図で、宮城県にある女川の原子力発電所は、女川の方々から、宮城県の方々から見れば何で新潟県に送る電気を、俺たちがそんなリスクを負って作らなきゃ駄目なんだと、いうふうな話にもなりかねない。

事実として今年 9 月、女川の原子力発電所が動き出すと、柏崎にもその電力は、原発による電力は流れてきます。そして先ほど申し上げたように、期待として原子力発電所が動き出すならば、電気料金が下がることが期待されます。

もう 1 つ、最後、東京電力は、この福島事故の反省を自分で大きく感じ、そして責任を担う、その覚悟を示すために、東京の東電の本社の原子力本部 300 人を柏崎に移します。駅前のエネルギーホールを建て替えて、そこに 200 人を勤務させます。残り 100 人はサイト内で勤務をします。それがどうしたと言われればそれがどうしたということになるかもしれませんが、私は東京電力が安全に、そして地元の方々と近いところで自分たちも本部を移してや

るという覚悟を示すものだと私は評価をしております。当然のことながら 300 人の方々が柏崎に新たに住んでいただくわけですので、そこで経済的な効果も生まれます。しかし、それ以上に私は大事なものは、東京電力が責任を担うという覚悟を示すということが大事ではないのかというふうに考えております。

下にある○×表は私が考えているところでございます。エネルギーセキュリティ、安定性、気候変動、先ほど申し上げました。サイト内には今 5000 人 6000 人の方々が働いていらっしゃいます。うち 54%は柏崎市民です。残りは刈羽村さん、また県内の自治体からお越しただいでいる方、県内で 79%であります。そして動き始めると 13 ヶ月にいっぺん、約 2 ヶ月の定期点検があり、そこでも数千人単位の雇用が生じます。今までに国からの交付金、固定資産税等の自治体の財政的なメリットがあります。

また、日本石油発祥の地であり 1888 年、明治の時代から石油産業で、そして昭和 44 年、1969 年から 55 年間、原子力という形で日本の高度経済成長を支えてきたという自負があります。私はそう思っています。じゃあ、何で○・×・△か、そう思っていない人もいらっしゃるかもしれませんが、○の下には△をつけておきました。

同じように×も同じです。福島事故を起こしました。広島、長崎の原子爆弾の被害のイメージもあります。使用済み核燃料も先ほど申し上げましたように、最終処分が決まっていません。地震大国です。テロの標的になりうることもあります。柏崎の天候、雪、風、そして何よりもこの 55 年間、原発賛成・反対と、他の問題では仲が良いのに、この問題になっちゃうと、別れてしまう。これは柏崎にとってマイナスではなかったかなと思っています。いや、逆に議論ができて良かったという人もいらっしゃるかもしれませんが、×の下にも△をつけておきました。

以上、私の考え方、再稼働そして再生可能エネルギーに対する考え方も含めて申し上げたところでございます。残りの 1 時間は皆さんとともに皆さんのご質問やご意見にお答えしたいと思っていますよろしくお願ひいたします。

司会：はい、それではここからはご参加の皆様からご質問ご意見の方をお受けしたいというふうに思っております。多くの方からご発言いただきたいというふうに思っておりますのでお 1 人様 1 問ということでご質問いただき、その都度、市長の方からご回答をさせていただきますというふうに思っております。ご発言いただく際には挙手をいただきましてスタッフがマイクをお持ちしますので、町名とお名前をおっしゃってからお話させていただきますようご協力の方よろしくお願ひいたします。それでは、ご質問の方、いかがでしょうか。はい、マイクをお持ちします、お待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉です。私、最初に、この議事進行といえますか、今日の会議の性格といえますか、そういうことについてちょっとお伺いします。

市長さんは、この 3 月 21 日の市議会で、商工会議所等が出した早期再稼働要請の請願、通りましたよね。圧倒的多数で決まったと。それに対して市長さんがマスコミに、今後いつ東京電力から再稼働したいという要請があるのかないのか、議会の採決が私の返事をする大きな要因だと、バックグラウンドとなる、こういう自信を持った回答されていました。

その後ですね、議会で請願が可決されたことで、再稼働の判断に当たり、最も大事なピースの一つが埋まった、ピースということを使われました。再稼働には意義があるという考えは変わりがない、今後は最終的な判断のために市民の意見を聞いていきたいと。そしてこの市民の意見を聞くということで今日この懇談会行われていると思うのですが、私は市長さんの頭の中に、また、私、幼稚かもしれませんがけれども、市長さんは、この再稼働を実現、同意ジグソーパズルなるものを考えて、いろいろこれまで努力されてきて、議会のパズルがはまったと。

今度は市民のパズルって言うのですが、このジグソーパズルのあとは、再稼働 OK というパズルのピースしかないわけですよ。そうすると、今、市長さんは自信を持って再稼働がいいんだと、こう言われたけれども。そうすると私ら、この今日、懇談会でこの何か意見出しても、市民はいろいろ言ったな、俺は2回も選挙で支持をもらっているのだから、再稼働のピースはもうパチンとはめて、世間というか社会的には柏崎市長は再稼働に同意するんだという方向に進むんじゃないかと。ということになると私ら、懇談会、今日何を言っても、市長さんも再稼働に結論を持っていっちゃう、そういう心配があるんですよ。この懇談会で市長さんはどういうこの意見のまとめ方をされるのか、反対意見に出てもそれは推進に持っていっちゃうのか、あるいは賛成のことが出たら、たったこれだけの人数しか来てないんだけど柏崎市民は再稼働をOKだったぞと持っていっちゃうのか、何かこの今日のこの懇談会で持ち方ですね、どういうふうに市長さんは利用されるのかお聞かせ願いたい、これが最初の質問でございます。以上です。

市長：はい。〈質問者〉さん最初の質問と言うけど最初で最後なので、申し訳ない、1人1回なんで、申し訳ありません。

まずこの懇談会の意義というか質問でございますけれども、先ほど申し上げましたように、ご紹介いただきましたように、議会で請願が可決されたと、私にとって最も大事な、ワンピースが一つのピースが埋まった。ジグソーパズルに例えさせていただいて恐縮でございましたけれども。もう決まっているじゃないかという話ですけども、そんなことはありません。これはずっと申し上げていきますけれども、再稼働に当たっては、東京電力に出している要件、その返事はまだ聞かせていただいております。それから、国に出している安全な、実効性ある避難計画に資する道路整備などに対する、要望に対するご返事をまだ国からお聞かせいただいております。そういった意味で、そういったピースが埋まったときに、私としては、わかりましたと。

しかし、私が何度も申し上げますように、もう過去2回の選挙も含めて私の考え方というのは皆さんお伝えしていますので、ここで考え方が変わるようでは、公約違反もいいとかなんで、何事もそうですけども、自分の考え方はこうだというふうに申し上げて、皆さんからいろいろ。確かに変わらないかもしれませんが、しかし今まで（地域懇談会）6回やってきましたけども、かなり私としては、反対をする方々の厳しいご意見を承って、感じる部分ありました。

意味ないのではないかってことはありません。それは、私がどう思っているかっていうのはなかなか〈質問者〉さんには伝わらないかもしれませんが、決して意味なく、意味がないということはありません。私にとって、はっきり申し上げて、あんまり好ましい時間ではなかったです、過去6回も、攻め立てられましたので。しかしそれは必要なプロセスだというふうに思っています。そういった意味で、ぜひともまた皆さんからはいろいろなご意見を賜りたいというふうに思います。結論は決まっているかもしれませんが、結論を決める前に大事なピースとして、繰り返しになりますが、東電、国からの返事が来てからという形になるということをご了解いただきたいと思います。

司会：はい。〈質問者〉様大変ありがとうございました。他の方がございましょうか。はい。今マイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します、よろしくお願いたします。元旦のですね、能登半島地震では、地震と津波ということで、東日本大震災の恐怖が蘇りまして、私も家内を連れて、さあ、うちから逃げようかなと思いましたが、もう道路の前が、車が渋滞になっておりまして、もうにっちもさっちもいかないということで、これはもう、家にいろということで2人でも死を覚悟しなきゃならないかなという一面になりました。今の市長の話の中で、当然安心という言葉が出てくる反面、不安というのも我々には取り去ることができないかと

思っています。

当然あってはならない不安ですけども、原子力災害時ですね、避難を円滑にするための道路整備とか、渋滞をして機能が停滞してしまったときの対応というのが、まだ残念ながら国からも回答がなされてない中で、この原発に再稼働に向かって、こういった説明会の中で話を聞いていますと、先ほどちょっと〈質問者〉さんと同じ話でありますけども、稼働を前提での話し合いなのかなというちょっと気がしますので、その辺を一つ、市長の方からコメントいただきたいと思っております。

市長：はい、ありがとうございました。確かに各会場で例えば予算がついたといっても、道路ができた訳じゃないじゃないか、という議論もいくつかございました。それは事実でございます、確かに。ただまず、予算の方から申し上げますと、国に対しては、5つの要望を上げているわけでございます。

柏崎市、刈羽村それから、新潟県、つまり、花角知事、品田村長、私。5つの要望は、まず一番最初に挙げたのは、皆さんから近いこの8号線バイパスを早期に完成させていただきたいというのが一つ。地域から行きますと、この地域に近い瑞穂中学校でいきますと、スマートインターを2つ作ってもらいたい。一つは曾地、一つは上方。そして、皆さんの避難する先は一部、春日とかの方々は妙高とか西の方に避難する、上越、そして糸魚川の方に避難されるわけで、関係するんですけども、市内の市民の75%が上越、妙高、糸魚川の方に避難することになります。そうすると向こう側に避難する経路をしっかりと機能しなきゃいけないんですが、残念ながら一昨年の大雪であったように、8号線が止まってしまった、北陸自動車道が止まってしまったということを考えると、一つネックになるのは、米山大橋です。風で止まるということも含めて、米山大橋の西側にある米山インターチェンジを柏崎側に持ってくるか、もしくは、柏崎側にあるサービスエリアに緊急進入路を入れるかということのを要望したのが一つ。あともう一つは、国道353、今申し上げたように、柏崎の市民の多く75%、6万人が使う8号線と北陸自動車道が止まってしまうと、向こうに避難する場所がないです。それに対応するために、353、鶴川の方に向かって国道353の野田の交差点から西に向かう小村峠にトンネルを開けてもらいたいといった、要望を含めて5つ、国に対して出しているところでございます。

まず、この見込みでございませうけれども、いつ返事が来るのかわかりませんが、そう遅くない時期に来るだろうと。そうしないと私は、どうぞと言わないわけですので、そしてその内容も5つの内容に関しては、ほぼ、私どもの要望を満たす内容として、お返事を国からいただけるものというふうに考えております。

そういった意味で、確かにできてないのになんてと言われるかもしれませんが、先ほどのCO2の問題も含めて、残念ながら解決するまで私たちは電気を使えないのかと言ったら、少しでも改善しながら、電気はやっぱり使い続けなきゃいけないのです。

そして今、この道路整備にしても、全く避難できないということではありません。

それから、能登半島と同じように家屋の倒壊が起こるという可能性は、新潟県柏崎においてはそれほど高くない。耐震化率の違いも、先ほどご説明しました。ということを含めながら、国に対しては要望したことを一刻も早く実現したいということのを要請しながら、重ねながら、再稼働を進めていくという部分が、認めていくというのが私の考え方でございます。

司会：はい。〈質問者〉様大変ありがとうございました。他の方いかがでございましょうか。はい。後ろの方。

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します。質問事項を最後、最後の一つにしますけどそれまで私が新聞とか、YouTubeが好きでそういったデータなんですけど、私はこれを読んでいたら放射線ってのはそんなに怖がるものじゃないと思っていました。

ということは、今現在ある地球の石炭、石油、これ全て太陽が作ったもの、太陽は原子炉むき出しの 100%です。ということは福島のご事故のときもそうですけど、タケノコの皮から放射能が検出されたとか、ほうれん草から検出された。だけどあのデータっていうのは、タケノコの皮を食べる人はいないと思うですよ。あと最後の方ですか、一番茶は捨てる。お茶は洗って飲めとは言わんけど、一番茶は危ないのはいないんだ、確かにお茶は洗ってから煎じては飲まないと思うですよ。ということでコーヒーも同じことですよ。南米の方からあの辺は放射能の高いとそういうことなんですけど、そういった意味から、私はそれほど怖がっていません。確かに新婚旅行でハワイ行ったり、アメリカに行ったりする、今、ヨーロッパに行くと、飛行機に乗ると何ミリシーベルト被ばくしますけど、実際これあるんですよ。ということは客室乗務員およびパイロットの方はほとんど、家族の子育て終わった人ばかりなんですよ。ということはあの人たちがそういう業務に立たされ、やってるわけですから。

そんな意味で私のぼやきの一つも終わりますけど、大雪が予想されるとき、逆に原発の出力を落としたりどうかと思うんです。その方がトラブルに対応しやすいじゃないか、これ全くの素人判断です。例えば、極端な話、停止してしまえと。それもなんだけど、種火程度残しておいて、大雪、道路が復旧したらすぐまた立ち上げるとか、そういう方法も、素人考えとしてはあると思います。

それから質問事項になるんですけど、一つです。2 年ぐらい前ですか、荒浜にある海洋生物研究所、これ行ってみたいなと思っていたら、何かチラシが入ってきたんで私も孫を連れて行きました。いろいろ中を見て、魚が確かにいる。係員の説明を聞いたら、この水は排水路 100%の水なんですと。それをもう 30 年近くこの魚たちはその中で、親子何代になってるか、そこでデータを取ってるんだと。そんな話を聞きながら確かに子供向けのいろんな遊び道具もあったので。それから荒浜の、なんていうんでしょう、婦人会の方が鯛汁作ってくれた。そこで休んでいたら市長さんも見えられて、挨拶したと思うんですけど。そういう意味でこの荒浜。もう一つ、新潟の内野の上新町というところにも海洋生物研究所の同じのがあるとは聞いてたんですけどそこでも同じような研究してるのかなと思ってます。

ということでもっとこの海洋生物研究所のデータ、この辺を公表できないものかなと思ってます。これだけです。

市長：はい、ありがとうございました。放射線はそれほど怖くないんだというようなお話、もちろん怖いのは怖いわけですが、ご承知のように放射線を使って私達に役に立つこともあるわけですので。

そういった中で先般 3 月の 2 日に行われました原子力規制委員会の初代委員長でいらっしやいます田中俊一先生のご講演の、目の前にですね、出してあるファイルでございます。福島事故で環境に放出された主な放射線ということでございます。半減期 8.0、30.2 年、半減期 5.2、多くはこの希ガスと言われるキセノン 133 とされる半減期 5.2 の希ガスが多く出されたということをお田中先生から教えていただきました。田中先生は避難しないでいいとおっしゃいませんでした。今ほどお話があったように、正しく恐れる、慌てて避難しなくてもいい。すぐに避難をするということをお私達も頭に刷り込まれてはいますが、今ほどお話があったようにそんなに怖くはないんだということをお田中先生もお話されてました。

ということで、ご質問の方の海生研のことでございますけれども、海洋生物研究所、もっと PR しろということでございました。なるほど、私もそう思います。実はあの、そこで使われているのが原子力発電所からの排水、放流水 100%かどうかは、私承知をしておりませんが、少なくとも原子力発電所の隣接の地にある海洋生物研究所でヒゲソリダイをあそこで養殖をしていました。私も何度も食べますし、皆さんも召し上がっていただいた方も多いかと思います。ヒゲソリダイも海洋生物研究所で、柏崎の漁協の方々と一緒に養殖、日本で初めて完全養殖を成功したのは海洋生物研究所でございます。そういった PR も含めて、もっと原子力発電所の隣にある海洋生物研究所の実績、もっと PR するようにという形で私

もまた海洋生物研究所にはそのように伝えたいと思いますし、機会があれば私自身もそのPRはさせていただきたいと思っております。

司会：〈質問者〉様、大変ありがとうございました。他の方がいかがでございましょうか。はい。前の方、今マイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：すいません。こないだ聞きそびれた部分があったので隣の校区の〈町名〉から来ました。〈町名〉の〈名前〉と申します。市長からいただいたあの、〇×のついてるプリントの中の黄色い部分で、甲状腺がんについてなんですが、自分達、3.11 甲状腺がんこども基金というのに加盟まして、そこでいただいている資料を見ると福島県で独自でチェルノブイリ以降、甲状腺がんが増えたということで、子供たちに対して、子供たちというと事故当時18歳以下の福島にいた38万人を対象に甲状腺の検査を実施したと。その後、継続的に2011年から現在まで、20歳の子供は2年に1回、20歳以上は5年に1回、超音波検査をしていると。それで数字的には、300人を超える人たちが、がんの診断をもらったということも出てるんで、これは直接、出ないというふうに書いてあるんですけど、そういうふうな実際もあるんで、その辺も知っててもらいたいかと思いました。

それからこないだ聞きそびれたところがあって、バスで迎えに来る運転手の人たちですね。それが1ミリシーベルト、1ミリシーベルトの中で迎えに来るかどうかということですが、公共交通の今バスの運転手もやっぱり募集していて足りないという状況の中で、もし避難をする段階になったときにそれは大丈夫なのかどうか、重ねて質問なんですが、以上です。

市長：はい、ありがとうございました。甲状腺に関する、被ばくに関する健康影響に関してはこのプリントも、先ほどご紹介しました田中俊一先生が作られたプリントでございまして。いちいち読み上げはしませんけれども、見解の相違ということも含めて、その数字はどういう数字なんだということで、これはこの前にありますけれども、このUNSCEARって言うんでしょうか、いわゆる国連の科学委員会の調査によるものでございまして。確かに被ばくはゼロではなかったのかもしれないですが、それによって甲状腺がんですとか子供の影響はなかったというのは国連の調査結果でございまして。

それから、バスの運転手が確保できるのかと、いざというときにでございまして。これはもちろん私どもが責任を持っているわけではございませんが、国が原子力防災、避難に関しては、県とともに私ども市と連携しているわけではございます。新潟県のバス協会とそれぞれ協定を結んで、いざというときにはしっかりとバスの運転手が確保できるようにという形で私ども今、協定を信じ、そしてまた相互の連絡調整をしているところでございまして。

司会：はい。〈質問者〉様大変ありがとうございました。他の方、いかがでございましょうか。はい。後ろの方、今マイクをお持ちします。

質問者：このコミセン、〈町名〉の町内会長を務めております〈名前〉と申します。よろしくお願ひします。私からは先ほども少し出たんですけども避難道路の視点をちょっとお願ひをさせていただきます。

この当地、橋場地区には鯖石川が流れていて2本の橋がかかっています。1本は平成橋と1本は開運橋ですぐ近くにあります。開運橋からこの団地の方向に入ってくる道路、確か私の記憶では、市道の11-90号線だと思っておりますけれども、そこから越後線を越えて国道8号線、あるいはその先の8号線バイパス、さらには先ほどもありましたけども、避難場所としてこの地域は妙高市に向かわなければいけない。そうするといかにそのメイン道路、幹線に出なきゃいけないかということで、この道路、計画、市としてはもう正直50年ぐらい前、この橋場団地ができる頃に、市の開発公社も含めこの地元の先人、先達が、現在のこの避難道路という考え方があったかは定かではありませんが、せつかくそこを用意してある今の現在の敷

地というか、そういう部分で、早めにその道路を作っただけであれば、松波の皆さんも含めてこの橋場、春日、この辺の避難道路、それも、西だけじゃなくて東へ行く場合であったとしても、できるだけ大きな幹線道路に出る一番近道だと我々地元の人間は思っています。ぜひ、早急にその話は進めていただければというお願いでございます。以上です。

市長：はい。〈質問者〉様ありがとうございました。8号線を中心とした道路、避難道路のことでございますが、先ほど申し上げましたように知事と村長とともに出した5つの要望の中に、この8号線バイパスの早期完成といったものは、ご承知のように城東と鯨波までが昨年、一昨年、繋がったわけでございますし、結果的に茨目から繋がってるわけでございますが、茨目から要は、こちら東側まで、長崎までの繋がりがまだという形でございます。これに関しては、具体的に、私が申し上げたのは、本来、道路を作るのは国土交通省です。国土交通省も予算の配分があります。しかし、私は、原発の立地自治体の町の中の全原協というところの副会長させていただいておるんですけども、そこで申し上げたのは、原発の避難道路に関しては、国土交通省の予算と別枠を用意してもらいたい。じゃあ、別枠の予算は誰が用意するのかと言えば、原子力政策を進める経済産業省か、原子力防災を所管する内閣府か、どちらでもいいけれども、国土交通省に持参金と言ったら申し訳ないですけども、別枠で確保したお金を、この金を使って8号線バイパスを皆さん、皆さんというのは国土交通省が考えてらっしゃる計画よりも早くやってくれ、というようなことをお願いしてきたわけですが、結論で申し上げますと、このことは実現すると思います、今ほど〈質問者〉さんお話されたように。国土交通省の予算とは別枠で確保して、今までのペース以上に、この幹線道路を含めた、さっきのお話で申し上げますと、踏切のことも含めて、橋場の踏切のことも含めてだろうと思いますけど、そういったことは市、また県が今、県議もいらっしゃいますけれども、既にお話をしていますけれども、すぐにできるかどうかわかりませんが、こういった部分も含めて道路整備は進めていきたいというふうに考えております。

司会：〈質問者〉様、大変ありがとうございました。他の方がございましょうか。はい。一番前の方、マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します。国への要望とかね、いろいろ国策ということで事業を進めていると思うんですが、例えば、今の8号バイパスですね、市長さんもよくご存知のように私も平面図を見たのはもう42、3年前なんだよね。40何年も経ってても約束してても、ほとんど実行できない、あるいは国が要望を出してこれやりますと言っても、あるいは曾地のスマートインターが作りますよと言っても、50年先なのか、もっと、そういうような要望に対しては、必ず実行しますというのはわかるんですが、どれぐらいまでやってもええですかという約束までしていただきたいなと思いますね。

55年の原発誘致する時、要するに、地元のその振興策をね、期待して誘致したわけですが、そういう意味で、徹底した振興策を要望していただいて、さらに実施していただきたい。あんまり時間かけないで実施できるような、年数を区切った要望もしていただきたいなと思います。以上ですが。

市長：はい、〈質問者〉様ありがとうございました。先ほどの予算は付く見込みがあるとか、計画では大丈夫そうだとか言っても、今の〈質問者〉さんのお話も、そうは言ってもいつできるんだと、そこまで約束せい、というところでも、私が約束できるものなら約束したいんですけども。少なくとも、という言い方で申し訳ありませんが、先ほどの小村峠のトンネルに関しては、誰がどう考えても、1年や2年でできる事業ではありません。そう考えると、10年は考えなきゃいけないのかもしれないかもしれません。しかし、それを要望しないでいいのかということになると、要望しなければ物事が始まらないわけですし、また調査費がつかなければ始まらないわけでございます。

そのスピードをなるべく早めてもらいたいというのは、また私も、さらに今、〈質問者〉さんのお話も最もでございますので、先ほどいただいたお話も最もでございますので、ペースを早めてもらいたいということはさらに国にも申し上げたいと思いますが、正直申し上げて、私もこの頃、国土交通省とか、内閣府原子力防災に行ってもあんまり歓迎されないんです。また来たのかと言われるような感じでございまして、かなり皆さんのご要望を受けて、国の方も頭を悩まし、予算付けをしてもらっています。確かに早く、一刻も早く、そうじゃなきゃ困るじゃないかというお気持ちも切実な部分わかりますけれども、さらに私の方としても、国に対して、地元からもこういう強いご要望があるんだということは、改めてまた伝えるということでお許しいただくしかありません。申し訳ありません。

司会：〈質問者〉さん大変ありがとうございました。他の方いかがでございましょうか。はい。マイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉といいます。質問というか、要望なんですけれども、今年で福島事故からのテレビを3月10日見てたんですが、ひどい状態を見まして、もうあそこには住めないっていう、住めないなということを感じたんです、テレビを見て。そのような状態に柏崎になったら本当に困ると思います。

ですから東電には現場の状態を回復できる、回復できるまで東電には次の原発は動かさないでもらいたいし、それが当然なことだと思います。事故の処理もできないで、次の原発を動かすことなんてでき、できるはずがないと思います、常識的に。

それとですね、あと、ここにいらっしゃる皆さんも年齢が高いと思うんですけれども、自分の家族、息子、孫のことを考えてみてください。もしここで再稼働になったら、自分たちは未来が少ないからいいんですけれども、幼稚園児、小学生、中学生、高校生の何も言えない、選挙権もない子供たちの意見はどうなるんでしょうか？そこでずっと生活していく、長く生活するのは、柏崎に住むのは、そういう子供たちを優先して考えるべきだと思います。勝手に大人が自分たちの経済的なことを考えて、考えを通していたら、子供たち、後世の子供たちに迷惑をかけると思います。簡単な再稼働に賛成していて賛成したら、本当にそこを考えて、再稼働賛成とかそういうふうな結論にしてもらいたくないです。以上です。

市長：はい、〈質問者〉様ありがとうございました。今、ご覧いただいているのは、ご指摘があったように、福島の今、というのは正確じゃありませんね 2023年の居住率でございます。例えば、原子力発電所があった元双葉町、元々5500人余りの人口があります、人口があるところですけども、実際に戻っていらっしゃる人はその1.7%というところでございます。ということを含めて、今、福島事故の後、福島に戻ってそこに住んでいらっしゃる人は非常に少ないというのは確かに事実でございます。これも田中先生が出された資料でございます。

ただ冒頭、私も申し上げましたように、矛盾しています。矛盾していますが、しかし、先ほど申し上げたように、福島で起こったことが2度と繰り返されないように、田中先生を中心に新しい基準、新規制基準ができ、その結果、今回、能登半島地震においての志賀原発も柏崎刈羽原発も、若干のトラブルはあったかもしれませんが、放射能漏れはなく、大きなトラブルもなく、放射性物質も放出されることなく、収まっているところでございます。そういったことを考えたり、また、先ほどの繰り返しになりますけれども、東京電力自らがこの補償の費用を捻出するためにも、地球温暖化を防ぐためにも、やはり一定の期間、日本にとっては原子力発電所の再稼働はやはり認めざるを得ないというのが私の考え方でございます。もちろん、お子さんやお孫さんのことも含めて心配されるお気持ちはわかります。しかし、福島事故を経て、日本の規制基準も大きく変わり、そしてまた東京電力の体制も変わりつつあると。いうふうに考えるところでございます。

司会：〈質問者〉様大変ありがとうございました。他の方がいかがでございましょうか。はい。今マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉です。今ほど市長さんからいろいろと説明をいただきましてですね、わかったような気がするんですけども、本当にこれで良いのか、どうなのか悪いのか、そういったところがちょっとまだ判断がつかない、というのが私の状態といえますか、考えです。

今回の話につきましてはですね、国の方から要請があったということとですね、商工会の方から請願があったということ、それで話が進んできたと思うんですけども、本当に何もなければいいんですけどもね。何かあったときに重大なことがあったときに、本当にこれで良かったのかというようなことを考えればですね、まだちょっと時期尚早じゃないかという考えとですね、拙速すぎるんじゃないかという考えがですね、あります。

そんなこともありまして、今のお話を聞いてですね、ちょっと今、時期尚早とか、そういう意味合いで理由としてはですね、二つぐらいなんですけれども。

まず東電さんの体質の問題ですね。東電さん、本当に核の移動とかつていろいろまた話が出てきてますけども、昨年解除になったばかりです。また IAEA ですか、の方の検査もといえますか、視察があったと、そういったことで、お墨付きをいただいたみたいな感じが、こちらとしては見えます。本当にそういったことをやってですね、本当に東電が運転を、再稼働を始めたということになればですね、本当に東電の社員の意識は本当に変わっているんだろうかなと。意識が高揚したんだろうかなとそんなことも考えられます。

それから、会社のその体質なんですけども、今まで社員がどれだけ携わってきたかわかりませんが、業者任せがものすごく多いんじゃないだろうかと、本当に社員が知ってるんだろうかと、そういったこともちょっと心配になります。

何かあって、国が面倒見てくれるからという考え方が、言葉が悪いかもしれませんが、親方日の丸的な考え方があるんじゃないだろうかと、そういったことも心配があります。そういったことで、市長さんが前回、選挙に出られたときにあの安心、安全安心という言葉は何回も使われました。そんなことで、安全安心で運転ができるのかどうかと、ということが、ちょっと心配になります。

それからもう一つですね、もうこれはもう先ほどから皆さん。

司会：意見をまとめていただいてよろしいでしょうか？

質問者：あともう一つですね。あと、先ほど5キロ圏内っていう話ありましたが、あのガイドラインの方には、この5キロ圏内の地区はですね、即避難ということになってますけども、先ほど屋内退避という話ありましたけど、その辺のちょっと相違の話もちょっと聞かせてください。

市長：はい。まず、後段の方のPAZつまり5キロ圏内の方々は、基本的には即時避難でございまして。ご自分の車で避難、即時避難が原則でございまして。なかなか高齢者を含めて車運転できない、もしくはなかなか1人で動けないというような方々は、それぞれの地域にありますがバス避難所に集合していただきまして、そこからバスで避難していただくという形になります。屋内退避は、基本的には5キロ圏から30キロ圏内の方々が屋内退避という形になるかというふうに考えております。

前段の方のご質問、ご意見も含めたご質問でございしますが、ちょっと時期尚早じゃないか、その理由は東電が本当に意識が変わっているのか、みんな、協力企業とか業者任せじゃないだろうかとというようなご心配でございまして。

私も昨年の6月頃、また、東京電力がトラブルのようなもの、まさに社員の意識の低さによ

る案件がありました。私もそのときに〈質問者〉さんおっしゃるように、私自身も本当に東電にこれを託していいんだらうか、私自身も思いました。そのことはいろいろなところで自問自答を始めたという記事になっただらうと思います。実際にそうです、本当に。丸々2ヶ月ほどだったでしょうか。しかし、いろいろなことを経験しながら、東電が動かさないで東北電力が動かして、他の電力会社が動かして、全く知らない人が動かして安全が確保できるだらうかと言われれば、それまた、そちらの方が恐ろしいと。ということで、いろんなことがあったんですけど、私自身はもう一度、東京電力にしっかりとその意識を覚醒してもらって、思い起こしてもらってということを経営者に伝えました。もう固有名詞を挙げますけれども、稲垣所長と何度もお話をさせていただき、本当に信じていいんでしょうかと。稲垣所長はご承知の通り、福島事故のときに、まさに真っ只中にいらっしゃった人です。そしてその後、3月12日の事故後1年と3ヶ月。翌年の6月までサイト内に留まり、被ばくをしながら、後始末をして、その後、柏崎刈羽原子力発電所の所長として赴任されてきた方です。ですから、原子力事故の恐ろしさ、そしてその責任をご自分自身がしっかり認識していらっしゃる。所長に申し上げました、その認識は、他の社員に伝わっていますかということでございます。伝えてもらいたい。今柏崎刈羽の中にサイト内に、稲垣所長と同じように、通常の被ばく量の何倍もの被ばくをして、今も元気に、所長も元気ですけれども、お元気に働いていらっしゃる方が数多くいらっしゃる。そういった方々の存在、そういった方々から、社員、また先ほどお話あった業者、協力企業の方々に、福島事故の経験を伝えて意識を高めてもらいたいということは、また改めて、今ほどの〈質問者〉さんからのご意見も含めて、改めて稲垣所長にも伝えたいというふうに考えております。

司会：〈質問者〉様、質問の方、まとめていただきまして大変ありがとうございました。お時間の方ちょっと迫ってきております。最後の質問とさせていただきたいと思いますが、まだ、ご発言いただいてない方おられましたらお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいですか。はい、〈質問者〉様どうぞ。

質問者：先ほど、黄色く色を塗ったところがありますね。説明がありました国連の科学委員会が、放射線被ばくに直接起因すると思われる記録はないと。これは日本の報告をこの国連委員会が聞いて、これ、結論出したんですよね。日本に来てたんですか、日本に来て調べたんですか。

もう一つ言いますけど、この方々、誰とこれやったんですか。みんな、この、日本の関係の放射線関係者ですよ。この人たちがね、みんなこれ、隠したんです、そういうことがわかっています。今までも、先ほどちらっと言っていましたけど、福島で甲状腺がんの子供たちね、300人前後の方が手術してるっていう話があるんですよ、みんな隠されちゃう、これは私の感想ですけど。

もう一つ隠されたことを言いますと、この小泉純一郎という方、首相がいましたけれども、この方はロナルド・レーガンというアメリカの原子力空母の、乗組員がすごく被ばくしていると、こういうことでそれを何とかしようということを努力されたことがありました。このロナルド・レーガンってどうして被ばく、福島と関係あるのかというと、爆発ですね。12日から以降、ちょうどあれ3月で雪が降った頃ですよ、みんな太平洋にこの季節風が流れて、非常に強い放射線が、放射能が太平洋に流れ込んだ。そこにいるロナルド・レーガンが日本のトモダチ作戦でやって来てたと。で、乗組員の証言から、こんな寒い日に時々暖かい空気が流れてる、その空気が来たときには、アルミ箔をなめてるような味がした、という表現があったって言うんですよ。

ということは、あの海の状態をですね、日本の誰が調べた。アメリカでもって、これを東電を告発したんだそうですけれども、証拠不十分でこれには消されちゃったんですよ。だから、福島事故がこの黄色にあるように、事故による放射能によって病気になるような人がいなかったっていうのね、調べ尽くしてないってことですよ。

いや放射線が弱いかどうかって、とんでもない。たくさん浴びればやっぱり死ぬんだよ。このマリーキュリーって一番先に放射能の研究をした人って、再生不良性頻脈っていう小児がんでない病気で死んでるんですよ。だから必ず小児がんになるわけではなく、がんが起こるわけではなく、要は正体不明の病気にも陥ってくる。

このロナルド・レーガン亡くなった方、整備士だそうです、一番最初にね。放射線量浴びただけじゃなく、物を舐めちゃったんですよ。内部被ばくってことで一旦起こした方が病気になると。放射線を浴びた、外部被ばくだけの方はたくさん浴びれば病気になるけど、弱い方はそんなに、確かに言われるとおり、すぐ出てきませんよ。

まだ本当に福島原発の事故っていうのを調べ尽くしていないんですね、こういう安全だっというようなことを振りまいちゃうんじゃ、これまた原発の安全神話、こういうのに繋がりますよ。

福島原発の事故についてもですね、追求しきれていない中で、柏崎原発を動かすなんていうのは、先ほど女性の方が言っていました通り、とても許されない。市長も再稼働にのめり込んでですね、1日も早くやれと言いたいんですが、とんでもない。私達は、少なくとも私はですね、再稼働は絶対許したくない。大体それ、市長が言ってるように価値があるとか、意義があるっていうけど、市長が言ってるだけです。長岡行って聞いたら上越へ行って聞いたら

司会： すいません、ご意見をまとめていただいてよろしいでしょうか？

質問者： 最後の質問は、先ほどちょっと聞きましたこの懇談会なるものを、ちょっとこれだけの人数ですよ。市民の意見を聞くんだったら、住民投票やってください、住民投票を。やる気ないんですか、あるんですか。聞かせて下さい。

市長： はい、国連の調査に対する見解に関しては、まさにその見解が違おうと思います。私は国連の調査は、1回行われたわけではなくて、先ほど申し上げましたように、定期的に行われて、現地に入り、先ほど申し上げたように原発を賛成する人からだけ聞いてるわけでもなく、反対をしている人から聞いたわけでもなく、公平な科学的な客観的な調査が行われ、そのデータが報告されているというふうに考えております。国連を信じないという人に関してちょっと何とお返事してもいいかわかりません。

住民投票についてどう考えるのかというお答えでございますが、今から25年ほど前、私が議員だった頃に、まだ〈質問者〉さんが議員になる前の話ですけども、プルサーマルを巡る住民投票を巡る要請がありました。

私は住民投票は反対だと申し上げました。理由は、エネルギー政策は、柏崎だけの問題ではない、新潟県だけの問題ではない、国全体の問題であると。もし、やるならば、国民投票である、国民投票で原子力の利用を反対とするならば、それはそれで受け入れましょうというふうなことを申し上げました。

同じようにして国民投票、住民投票ということもありますけれども、同じように住民の意向を聞かないのかということに関しては、これは今から4年前に行った市民意識調査でございます、アトランダムに行いました。お前らがやる調査なんか信頼できるかと言われてればそれまでですが、公平な調査機関によって、統計学的にも正しい調査です。

原発1号機から7号機、今後どうあるべきだとあなたは思いますか、柏崎市民ですよ、老若男女です。全号機の再稼働が必要6.1%、できる限り減らしていくが限定的な再稼働が必要29.2%、徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にする39.4、直ちに〈質問者〉さんと同じですよ、ただし、全号機廃炉にするべき19.2%。そうしましたらば、選択肢3、徐々に減らしていき将来は全て廃炉にするというこの39.4%は、徐々に減らしていくというのは、動かしないうでそのまんま待っていて減らす、最後に廃炉にするだろうという意見だろうというふ

うに言われた。そうではないわけです、

私どもの意思としては、1つ、7つ動いていたものを6個、6個を5つ、そして最後は将来廃炉にするという選択肢が3のつもりだったわけですが、原発反対派の方々から見れば、廃炉、廃炉で足し算すれば過半数じゃないかと言われたものですから、じゃあということで、設問を変えて、このようにしました。

市では、平成30年、2018年に柏崎市地域エネルギービジョンを策定し、限定的な基数、期間限定的な原子力発電所の利活用と風力、太陽光、蓄電池、水素などの再生可能エネルギーの産業化によるカーボンフリーの脱炭素まちづくりを進めています。あなたはどうか考えますが、賛成、大いに賛成、おおむね賛成で71.5%、先ほどのデータとほぼ揃っています。

つまり、全部動かせという方も含めて、部分的な再稼働を含めて、おおむねこの限定的な原子力発電所の再稼働と、風力発電、太陽光、蓄電池、水素、こういった部分に賛成するという人が71.5%です。この後、ウクライナの案件が起きました。

全国の新聞の世論調査では、先ほどの選択肢と同じような選択肢が全国の新聞でこのような世論調査が行われ、ウクライナの情勢の後、原発の再稼働が必要だという人が全国の世論調査では過半数を占めました。半数以上の原発が日本にとって再稼働が必要だという意見が全国の世論調査、ウクライナの情勢の後です。

そして直近では、確かに能登半島の地震が起こり、ある新聞社の世論調査の中では、過半数の部分が原発再稼働を認めるという方が過半数を切ったという新聞社の世論調査もございました。

ということを含めて、いずれにせよ、いや、なかなか先ほど冒頭でもお話ししましたように、原子力発電所にもプラスもあればマイナスもあります。しかし、火力発電にもプラスがあったり、マイナスがある。私は今、日本の電力が70%火力発電で行われているという実態を、どうするのかということを考えるならば、当面の間、日本にとっても、柏崎にとっても、世界にとっても、原子力発電所の利活用が必要だというのが私の考えであります。

1980年、今から40年ほど前、1980年にスウェーデンという国が、先ほど国民投票に関していろいろご意見があるみたいですが、スウェーデンは国民投票しました。原発を止めようと、全廃をしようということが国民投票の結果です。

しかし、結果、その結果、今、2024年ですけれども、スウェーデンは原子力発電所は複数基動いています。そして昨年、スウェーデンは40年前の国民投票の結果をひっくり返して、2035年までに新しい原発を作るということを決定しました。

つまり、この地球温暖化、気候変動の中で、原子力発電所の稼働なしに、地球温暖化を防ぐことが無理だということを、国民投票をやって、全廃を決めたスウェーデンが考え方を改めたということも改めて皆さんにお伝えしたいと思います。以上でございます。

司会：〈質問者〉様ありがとうございました。終了の時間となりましたので質疑応答の方はここまでとさせていただきます。たくさんのご質問ご意見いただきまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上をもちまして柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会を終了とさせていただきます。夜遅くまでお付き合いいただきまして大変ありがとうございました。